

奈良時代を今に感じる 伝統技能の継承現場

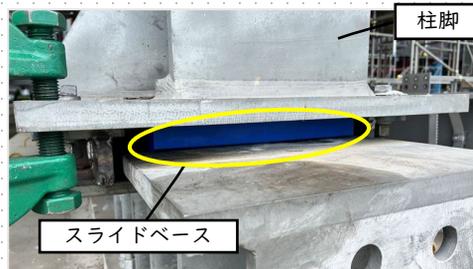
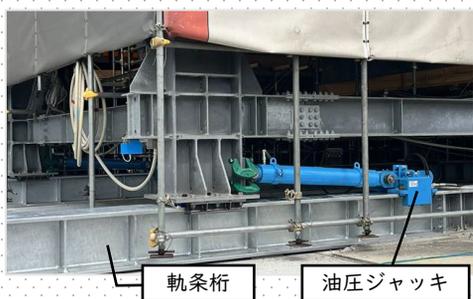
～ 現場の今 (工事進捗報告) ～

令和7年9月24日(水)、29日(月)の実質2日間で東楼の素屋根スライド作業を行い、東楼から西楼復原予定地までの距離約83メートルの移動が完了しました。

すやね 素屋根とは？

屋根・作業床を設けることで、天候に左右されず、安全に作業できるように設営された鉄骨の工事用仮設建築物のことです。高さ約30メートル、幅約50メートル、重量約665トンです。

大極門(南門)および東楼の復原工事に使用されたもので、今回の作業では、今後復原予定の西楼の位置まで移動を行います。



素屋根を移動させる方法

素屋根は、^{きじょうげた}軌条桁という鉄骨の上にあります。油圧ジャッキを使い素屋根を押しすることで、軌条桁をレールのようにして移動させることができます。

その際、素屋根の重量と同程度の摩擦抵抗が生じますが、素屋根の柱脚(足の部分)と軌条桁の間にスライドベースという部材を入れることで、摩擦抵抗を5分の1程度にまで抑えています。

また、スライドベース付近に塗布する潤滑剤はスプレーではなく、なんと**台所用洗剤**を使用しています！

油圧ジャッキが伸びて、再設置をするのに合わせて6分ほどかかるため、**1時間あたりおよそ10メートル**のペースで進みます。

(水平)油圧ジャッキ…油圧の力によって、物を水平方向に押すことができます。今回の作業では、約30トンの力で押せるジャッキが6つ、使用されています。

今回の作業のポイント

- ・素屋根などの仮設物を、すでに完成している**建造物(大極門)**をまたいで**移動**させるというのはかなり珍しく、緊張感がありました。
- ・前回行われた大極門から東楼への素屋根スライドとは違い、シートで覆われたままスライドさせたため、**東楼の姿が徐々に目見え**しました。
- ・素屋根の移動とともに、東楼復原で敷かれていた軌条桁を西楼復原予定地へ移動させていくことで**軌条桁を再利用**しています。

～大極門と東楼にまたがる素屋根～

スライド作業説明会

100名程度の方にご参加いただき、施工業者である(株)竹中工務店の方より、今回の素屋根スライド作業についてご説明いただきました。

質疑応答では、建物の構造や地盤についてなど、復原工事に関するさまざまな質問がありました。

